

授業科目

在宅看護学実習

| | | | | |
|---------------------------------------|------|----|-------|----|
| 担当教員名 杉本 洋、宇田 優子、小山 歌子、稲垣 千文、和田 直子 | 対象学年 | 4 | 対象学科 | 看護 |
| | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 90 |

ディプロマポリシーとの関連性

| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
|-------|-------|-------|----|-------|
| ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

授業の概要

在宅看護学実習では、在宅の場における看護活動を学ぶ。訪問看護ステーション等の実習施設における臨地実習と学内実習を織り交ぜて行う。臨地実習では受け持ちの利用者の看護展開を行うと共に、様々な利用者の方への訪問、その他サービス、会議等随時での実習を行う。学内実習では臨地実習での状況を確認し、今後の学習方針を教員と共に検討する。最後には学んだことをレポートとしてまとめ、総括する。

授業の目的

在宅の場における看護活動の実際を学び、在宅看護に必要な知識・技術を修得する。

学習目標

1. 在宅の場における看護の役割を説明・考察できる。
2. 在宅の場における療養者や療養環境の理解を深め、在宅の場における看護の特性を踏まえた看護計画を立案できる。
3. 多様な機関および職種、サービス提供体制等、在宅療養を支えるシステムについて説明できる。

授業計画

| 授業計画・学習の主題 | 担当教員 |
|--|-----------|
| 訪問看護ステーションや訪問看護部の組織・機能・活動について調べ、臨地実習における問題意識を明確にする。 | 杉本 洋 他 |
| 実習施設における看護師がどのような役割を果たしているかを、実習施設でのオリエンテーションや訪問等を通して学ぶ。 | 杉本 洋 他 |
| 受け持ち利用者の看護展開、受け持ち以外の同行訪問、その他在宅療養者が利用するサービス（通所サービス）等の実習を行い、在宅の場における療養者や療養環境の理解を深める。 | 杉本 洋 他 |
| 受け持ち事例を設定し、在宅の場での看護の視点を意識し、看護計画を立案する。 | 杉本 洋 他 |
| 看護職が他の保健、医療、福祉職等とどのように連携しているかを多職種間で行われるカンファレンスや、訪問等において連携がうかがえる状況を通して連携体制について学ぶ。 | 杉本 洋 他 |
| 関係者との連携の機会、または訪問看護以外の利用サービスにかかわる機会があれば可能な限り参加し、社会資源や連携についての理解を深める。 | 杉本 洋 他 |
| 臨地実習終盤でのカンファレンスでは学んだことを総括し、表現する。その際の指導者・教員の指導を元に、在宅の場における看護の考察を深め、レポートにまとめる。 | 杉本 洋 他 |

使用図書

| 使用図書 | 書名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 | 価格 | その他 |
|--------|----|-----|-----|-----|----|-----|
| 教科書 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | |
| その他の資料 | | | | | | |

評価方法

- 実習の取り組み状況 15%程度
 実習記録（レポート以外）の記述方法の適切性 15%程度
 実習記録（レポート）の記述方法の適切性 10%程度
 実習目標の達成度
 1)在宅の場における看護の役割の理解と考察 20%程度
 2)療養環境の理解と看護計画立案 20%程度
 3)在宅看護を支えるシステムの理解 20%程度

履修上の留意点

在宅看護に必要な看護技術、在宅看護が提供される体制等について事前に学習しておくこと。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：水曜日11時から13時
 メールアドレス：sugimoto@nuhw.ac.jp